

平成28年11月2日

福島県政記者クラブ加盟社 各位

ふくしま(未)(来)(学)

**福島大学 ふくしま未来学 (COC 事業)**  
**ふくしまを知るスタディツアー「みらいバス」のお知らせ**  
**「第14回 福島をいかに海外に伝えるか in 広野町」**

福島大学では、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC 事業）として、原子力災害からの地域再生を目指す「ふくしま未来学」を平成25年度からスタートしました。

昨年度より、教育・社会貢献の新しい取り組みとして、ふくしまを知るスタディツアー「みらいバス」を実施しています。地域の歴史や現状への理解を深め、地域の魅力や課題を探ることを目的に、学生や教職員が福島県内の各地域を訪れ、地元住民の方々との交流やイベントのお手伝いなどを行っています。

これまで、川内村の「高田島春季例大祭」、浪江町での「田植え体験」、葛尾村の「かつらお村民運動会」をはじめ、富岡町、楡葉町、大熊町、二本松市、金山町などで計13回実施し、のべ183名の学生・教職員が参加してきました。

今回、第14回では、広野町を訪問し、“母なる故郷”浅見川の整備や川辺の清掃活動、広野町主催の国際フォーラムのセッションに参加することをおして、広野町に密着した復興の最前線について学び、それをもとに、いかに海外にむけて福島の実情を伝えるかを考えていきます。

つきましては、当日に取材をしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。ご不明な点等ございましたら、下記までご連絡ください。

記

●第14回みらいバス

「福島をいかに海外に伝えるか」：広野町

- ・日 時：2016年11月26日（土）
- ・場 所：広野町浅見川、広野町中央体育館
- ・対 象：学生・教職員
- ・定 員：20名（募集中）

※スケジュールは添付資料をご覧ください

【問い合わせ先】

福島大学ふくしま未来学(COC)推進室事務局

Tel：024-504-2850 / Fax：024-504-2849

当日の連絡先：

080-8202-2831（高橋）

第14回みらいバス 11月26日(土)

## 福島をいかに海外に伝えるか in 広野町

### ～“母なる故郷”浅見川の実例から考える～

広野町では、町の風土と魅力を守る復興活動として、NPO法人「浅見川ゆめ会議」を中心にアユの産卵場所の整備や川辺の清掃活動など、浅見川的环境改善に取り組んでいます。「復興」という概念は、生活環境やインフラの復旧などから、町の風土の保全や魅力の創出など、幅広い意味合いを持ちます。しかし、このような福島復興の実情は、海外には中々伝わりにくく、未だに復興＝廃炉、除染などといった負のイメージが定着しているのも現状です。

今回のみらいバスでは、広野町に密着した復興の最前線について学び、それをもとに、いかに海外に向けて実情を伝えるかを、広野町主催で当日行われている、国際フォーラムのセッションとグループワークに参加をし、地域在住の外国出身者の方々などと一緒に考えます。

時間	内容
7:15	金谷川駅前 出発
9:00	地域の方々と交流をしながら、浅見川を守る清掃体験 【場所：事務局にお問い合わせください】
11:30	NPO 法人浅見川ゆめ会議 鈴木正範代表から地域の実情を伺う 【場所：柏屋 広野町下浅見川築地 24-3 (予定)】
12:15	昼食
14:00	国際フォーラム「福島をいかに海外とつなぐか～情報発信者としての役割～」のセッションに参加し、地域の実情をどのように発信したらよいかを考える 【場所：広野町中央体育館 広野町中央台 1-1】
17:15	広野町出発
19:15	金谷川駅前 到着 (予定)

※スケジュールは一部変更になる場合があります。ご了承ください。

#### <NPO 法人浅見川ゆめ会議とは>

浅見川を中心とした自然環境や歴史・文化などを次世代に継承するための活動を行う団体。

#### <広野町国際フォーラムとは>

海外からの視点を交えて、広野町だけに留まらず、被災地全体の今後の復興について考えることを目的に、広野町主催で平成26年度から行われている取り組み。

- 午後のセッション：「福島をいかに海外に伝えるか～情報発信者としての役割～」

海外メディア等の取材に同行通訳を行った通訳案内士が、海外という外のフィルターを通して気づいた

「FUKUSHIMA」について、パネラーが発表し、それに基づき、参加者全員によるグループディスカッションを行う。